

日中福祉交流コーディネーターが見る

# 上海福祉の今

日中福祉プランニング代表 王青



中国上海市出身。大阪市立大学経済学部卒業後、アジア太平洋トレードセンター（ATC）入社。大阪市、朝日新聞、ATCの3社で設立した福祉関係の常設展示場「高齢者総合生活提案館ATCエイジレスセンター」に所属し、広く「福祉」に関わる。2002年からフリー。上海市民政局や上海市障がい者連合会をはじめ、政府機関や民間企業関係者などの幅広い人脈を活かしながら、市場調査・現地視察・人材研修・事業マッチング・取材対応など、両国を結ぶ介護福祉コーディネーターとして活動中。2017年「日中認知症ケア交流プロジェクト」がトヨタ財団国際助成事業に採択。NHKの中国高齢社会特集番組にも制作協力として携わった。

中国では今月に入り、新型コロナウイルス感染のピークがすぎ、徐々に普段の生活に戻り始めた。1月から介護施設が封鎖されていたが、ようやく出入り禁止が解除され始め、入居者と家族が3ヵ月ぶりに再会する日を迎えた。

施設で暮らす80代の母親との再会を翌日に控えた上海在住の60代女性は「母とは約3ヵ月会ってないため、眠れないほどワクワクしている」と喜んでいました。

施設訪問当日、施設はお祭りのように慌ただしかったです。スタッフは消毒

## 3ヵ月ぶり 家族との再会に歓喜

剤や訪問者の健康状態の申告書類、体温計などを準備。午前9時には、施設前に10数名の訪問者が列になっていた。自分の親の好きな食べ物やプレゼントなど、いっぱい荷物を抱えていた。



▲▼施設はお祭りのように賑わった

その日は95歳の女性入居者の誕生日だったの で、家族はもちろん、スタッフもプレゼントとケーキを用意し、お祝いしました。ほかの入居者や家族も一緒に「お誕生日おめでとう！」と「やっとう会えてよかったね！」と涙を流しながら、お互いに喜びを分かち合った。



封鎖については、一部の家族に理解してもらえず、激しい口論になったこともあった。入居者も情緒不安定や鬱になってしまった人もいた。いつもより何十倍も入居者の健康に気遣い、家族の協力も得なければならなかった。スタッフは身心ともに限界が来ていた。みんなよく頑張ってくれたと思う。今日という日を迎えてよかった。感無量だ」と目を赤くしながら語った。

現在、上海市の約700の施設では、政府が様子を見ながら徐々に封鎖を解禁していく予定だ。これにあたっては①面会時間は1日2時間。1時間面会できるのは16名の入居者のみ②入居者1名につき1名の家族のみ③1週間前までに要予約④面会の場所は施設の公共スペースのみ、などの規定が設けられている。そうすることで、なるべく多くの入居者が平等に家族との面会ができるようになる」と政府は説明している。

現場のスタッフの並々ならぬ努力により、ついにこの日が迎えられ、こができたが、現状はまだ少しの油断も許されない状況だ。